

のぼりの文字について住民に聞く井出幸男
・高知大学名誉教授=右(佐川町加茂)



県内各地で長く伝わる文化芸能を後世に伝えようと、県が「民俗芸能緊急調査」を進めていく。国の文化財などに指定されていない伝統文化にも、光を当てようという取り組み。月初旬には研究者が高岡郡佐川町で「玄蕃踊り」をビデオ撮影し、住民に聞き取りを行った。

(楠瀬健太、楠瀬慶太)

県が玄蕃踊り(佐川町)など調査

県の調査委員会(委員長・井出幸男・高知大学名誉教授)が県内全域の地区長らにアンケートを取り、市町村ごとに委嘱された調査協力員が聞き取り。同時に井出委員長ら研究者3人が現地を訪れており、これまでに高岡郡津野町の「お伊勢踊り」や、同郡四万十町の「大念仏」などを調査。

8月2、4日には佐川町で回りながら舞うのが特

緊急調査は、県が文化庁の支援を受け2019年度からの3年間実施。神祭などで披露される踊りや芝居が対象で、少子高齢化で変容や衰滅が進む芸能の現状を記録する。



現在に伝わる佐川町室原地区の玄蕃踊り(同町室原)

委員会「文化財指定も視野」

徴だ。町史によると、1642年にコレラが流行した際、領主の深尾重昌が疫病退散を祈願。そのおかげか罹患者は少な

く、当地に伝わる玄蕃踊りを奉納したこと、一帯に伝わったとされる。町の文化財には指定されていないが、全国的にも似た踊りは無く、「中世までさかのぼる歌や踊りを伝えている。存続しているだけで奇跡に近い」(井出委員長)という。

現在は町内4カ所で踊りが太鼓や鉦に合わせ、御幣をぐりつけたサカキの周囲を歩いて回った。

ただし、井出委員長は約30年前に同地区で見た時にはあつた振り付けが無くなつており「簡素化されている」と指摘。「調べで本来の形に迫つていただきたい」と意気込み、「各地の民俗芸能を拾い上げ、有力なものは県や国の文化財へ指定されるよう推していきたい」と話していた。